

# 琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議

## かわら版

— 第 1 5 号 —

事務局：京都府建設交通部公営企画課

TEL：075-414-4772 FAX：075-414-5470

e-mail：koei@pref.kyoto.lg.jp

～ 令和6年3月発行 ～

### 琵琶湖・淀川流域図

— 府県界  
— 流域界  
— 上水供給界



### 構成団体

- ・三重県地域連携・交通部  
水資源・地域プロジェクト課  
TEL:059-224-2010
  - ・滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課  
TEL:077-528-3461
  - ・京都府建設交通部公営企画課  
TEL:075-414-4772
  - ・大阪府政策企画部企画室推進課  
TEL:06-6944-7690
  - ・兵庫県企画部総合政策課  
TEL:078-362-3294
  - ・奈良県水循環・森林・景観環境部  
水資源政策課  
TEL:0742-27-8489
- [オブザーバー]
- ・(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構  
TEL:06-6920-3035

### ■「琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議」とは

平成15年3月に京都市等で開催された『第3回世界水フォーラム』を契機に、流域6府県（三重県・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県）が、水環境保全のネットワークを構築するため「琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議」を設立しました。

### ■「琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議」の活動

「琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議」では、琵琶湖・淀川流域の自治体間の情報共有及び連携を推進し、琵琶湖・淀川流域における水環境保全の取組等に関する啓発事業及び情報の発信を行うこととしております。

※かわら版では、構成団体における水環境保全に関する取り組みを紹介します。

— URL： <http://www.pref.kyoto.jp/kyonomizu/10400031.html> —

## ■三重県■ 川上ダムについて

### 1 概要

川上ダム(独立行政法人水資源機構)は、淀川の支川である木津川の上流部、三重県北西部に位置する伊賀市を流れる前深瀬川に建設された多目的ダムです。淀川本川及び木津川の洪水被害を軽減するなど、大阪府、京都府、三重県にまたがる淀川流域全域の治水安全度の向上に寄与し、上野遊水地や河川改修と相まって、伊賀市上野地区等の浸水被害を解消します。また、伊賀市の安定した水道水源として、最大毎秒 0.358 m<sup>3</sup>の水を供給します。さらに、前深瀬川及び木津川の既得用水の補給等流水の正常な機能の維持と増進を図り、既設ダム(高山ダム、青蓮寺ダム、布目ダム及び比奈知ダム)が堆砂除去する際の代替補給を行います。

令和5年4月からダムの管理運用が開始されました。



### 2 現在の取組内容

#### (1)試験湛水

試験湛水とは、水を貯められる最高水位まで貯水位を上昇させ、その後確認が必要な貯水位まで降下させることにより、ダム堤体や貯水池周辺地山等の安全性を確認することです。非洪水期(10月16日～6月15日)に、水を貯めることができる最高水位に向けて貯水位を上昇させています。初めて貯水による水圧を受けることから、「ダム堤体観測・巡視」「貯水池斜面観測・巡視」などが行われています。



#### (2)水道水の供給

木津川の河川流量が減少した際は、伊賀市からの要請に基づき、ダム貯留水を木津川に供給し、水道用水として取水できるようにしています。

#### (3)ダム防災操作

洪水期(6月16日～10月15日)は大きな洪水が想定されることから、ダム下流の浸水被害軽減を目的とするダム防災操作のため、常時は洪水貯留準備水位で貯水位を維持し、洪水を一時貯留できるように備えます。洪水時には、この容量に洪水量(70 m<sup>3</sup>/s)以上の流入水を貯留することにより、洪水調節が行われます。令和5年8月15日に管理開始以降、初めて防災操作が行われ、下流河川流量が低減しました。

これらの取組に加えて、貯水池の水質保全・ダムによる環境影響のモニタリング調査・水源地域ビジョンに基づく取組が行われています。

今後も、川上ダムを新しい地域資源として有効に活用した地域づくりに協力していきたいと考えています。

(協力:水資源機構木津川ダム総合管理所 川上ダム管理所)

## ■滋賀県■ 第19回世界湖沼会議で滋賀県の取組を発信しました

### ○第19回世界湖沼会議（ハンガリー・バラトンフェレド）

令和5年（2023年）11月7日から9日の3日間、ハンガリー・バラトンフェレド市において、第19回世界湖沼会議がバラトン湖開発局と（公財）国際湖沼環境委員会（ILEC）の共催により開催されました。世界の湖沼関係者やNGO・NPO、企業、行政関係者ら、30か国・354名が参加し、世界の湖沼問題の解決に向けて様々な議論が行われました。

### ○会議での発信内容

滋賀県からは、副知事をはじめ、県職員や県民、学生等が参加し、琵琶湖の環境保全に関する取組やマザーレイクゴールズ(※)の取組等について、分科会やポスターセッションで発表されました。また、ハンガリーと滋賀県の高校生による高校生セッションがオンラインハイブリッド形式で開催され、湖沼保全に向けたユースからの提言や、高校生たちの湖沼や自然環境に関する研究の取組等を世界に向けて広く発信されました。



開会式での副知事によるスピーチ



分科会での滋賀県の取組の発表

今回の会議では、若者世代の積極的な参画のもと、様々な議論が交わされ、最終日には「バラトン宣言」骨子が発表されました。この宣言の中では、開会式で滋賀県副知事が賛同を呼び掛けた「世界湖沼デーの制定に向け推進を図ること」が盛り込まれたほか、持続可能な湖沼管理に向けて、『科学と政策の統合』を推進することや「政策決定者とのコミュニケーションの深化を図ること」などが提唱されました。

本県が提唱して始まった世界湖沼会議は、概ね2年ごとに開催されており、次回（第20回）は2025年にオーストラリア・ブリスベンで開催予定です。

### ※マザーレイクゴールズ（MLGs）とは

2021年7月に策定された、「琵琶湖」を切り口とした2030年の持続可能社会へ向けた目標（ゴール）です。「琵琶湖版SDGs」として、2030年の環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環の構築に向け、独自に13のゴールを設定しています。



▲ MLGs WEB

## ■京都府■ 京都府流域下水道浄化センター「施設公開」について

京都府では、下水処理の仕組みや処理施設の役割を通じて、下水道についての理解と関心をより深めていただくため、洛西、洛南及び木津川上流等の各浄化センターにおいて年1回、施設公開を行っております。

令和5年10月21日(土)に開催した洛西浄化センター(京都府長岡京市)の施設公開では、約200名を超える府民の方々に来場して頂き、普段見ることができない下水処理施設や雨水対策施設(いろは呑龍トンネル)の見学ツアーをはじめ、顕微鏡での微生物観察や子供も大人も楽しめるぬりえコーナーなどを通じて、下水処理の仕組みを楽しみながら知っていただくよい機会となりました。

なお、来場者の人気を集めていたのは、いろは呑龍トンネルのマスコットキャラクター「呑龍太郎くん」で、特に子供たちに大好評でした。

これからも多くの府民の方々に足を運んでいただくため、下水道の普及・啓発活動をより一層取り組んでまいります。



呑龍太郎くん

当日の様子は

こちら

いろは呑龍トンネル 施設見学



顕微鏡での微生物観察



ぬりえコーナー



※いろは呑龍トンネルとは、大雨で増水した水路等から地下トンネルに雨水を取り込み、河川へ放流することで、地域を浸水被害から守る雨水対策施設です。

## ■大阪府■ 「淀川沿川まちづくりプラットフォーム」について ～民間主導による淀川沿川のまちづくり～

大阪府では、2050年に向けた大阪全体のまちづくりの方向性を示す「大阪のまちづくりグランドデザイン」に基づき、淀川沿川のまちづくりを推進しています。

「淀川沿川まちづくりプラットフォーム」は、沿川のまちづくり団体や舟運事業者等で構成され、八軒家浜から枚方までの舟運復活を契機に、沿川の将来像を共有することを目的とし、2017年8月に発足しました。国や大阪・京都府域の沿川の自治体等もオブザーバーとして参画し、大阪府が事務局を務めています。

2018年3月には、「淀川沿川まちづくりプラットフォーム」において、淀川沿川の地域資源を活かし、その価値を高め、広域的な視点でつなぐことで、魅力あふれる都市空間を創造し、まちづくりを推進することを基本目標とする「淀川沿川広域連携型まちづくり戦略」をとりまとめ、この戦略に基づき定期的に意見交換や連携事業を行っています。

### 具体的な取組

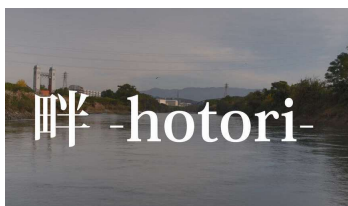
- |   |   |
|---|---|
| 1 淀川舟運の活用<br>例) 河口から伏見までの航路の拡大、船着場の活用 等       | 5 魅力ある景観の形成<br>例) 淀川沿川や歴史街道のビュースポットの選定 等                    |
| 2 サイクルートの活用<br>例) サイクルートの充実、サイクルステーション整備 等    | 6 自然の保全・再生と活用<br>例) 自然再生活動の実施、水辺の総合学習 等                     |
| 3 淀川ブランドの創造と活用<br>例) 新たな特産品の創出、特産品の船内及び通信販売 等 | 7 助け合いによる安全・安心の確保<br>例) 平常時における災害対応力向上、災害時における避難所や物資運搬の応援 等 |
| 4 歴史街道や文化的資源の活用<br>例) 古民家や空き家の活用、観光マップの充実 等   | 8 ビジュアル情報の発信<br>例) SNSによるビジュアル情報発信 等                        |



意見交換の様子

「淀川沿川広域連携型まちづくり戦略」における8つの取組

これまで、連携事業として、淀川沿川の魅力を発信するため、川柳やフォト・スケッチコンテストの開催、プロモーションビデオ「畔」の制作に加え、「淀川広域観光資源マップ」の作成等を行っています。さらに、沿川の見どころを巡っていただくために、「淀川周遊スタンプラリー」や「大阪京都 淀川周遊サイクルディスカバリー」等を実施しています。



プロモーションビデオ「畔」



淀川広域観光資源マップ



淀川周遊サイクルディスカバリー

2025年大阪・関西万博までの完成をめざして国が淀川大堰閘門の整備を進めており、引き続き、舟運の活性化につながる沿川のまちづくりに取り組んでいく予定です。

## ■兵庫県■ 神戸・阪神地域における「水利用」について

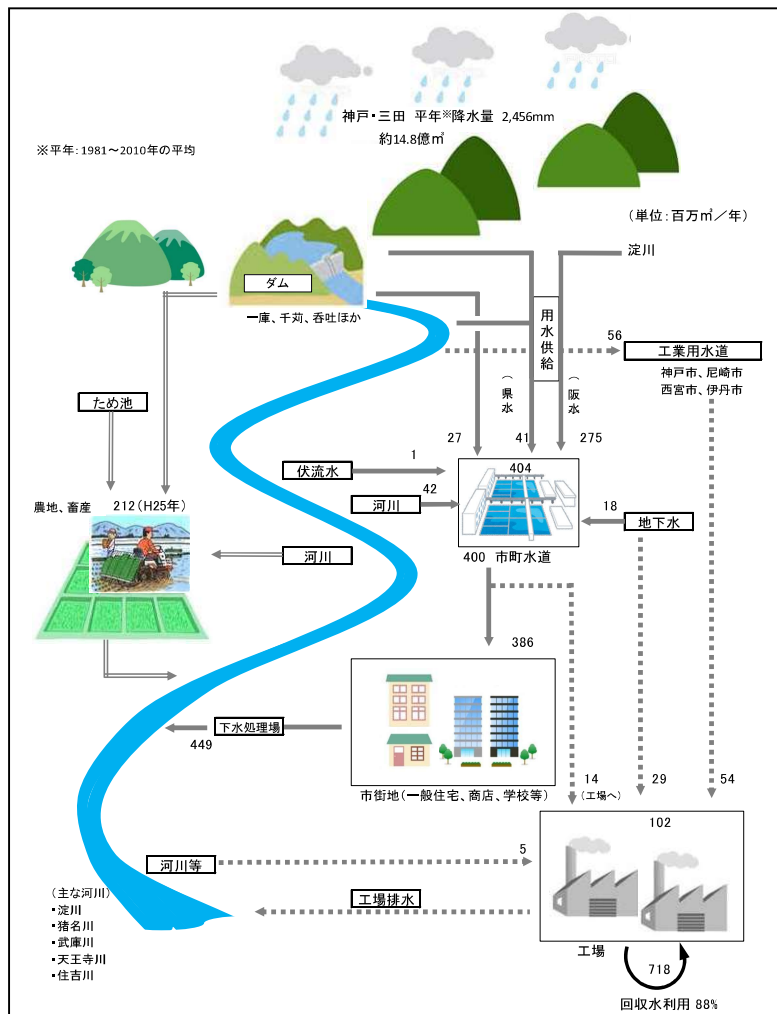
神戸・阪神地域<sup>※</sup>には、約 320 万人が生活しており、普段の生活で意識されることは少ないが、「琵琶湖・淀川」から多くの恩恵を受けている。同地域では、①飲料水など生活用水（上水道）として 4.0 億 m<sup>3</sup>/年、②農業用水として 2.1 億 m<sup>3</sup>/年、③工業用水として 1.1 億 m<sup>3</sup>/年の水を利用しているが、上水道では8割以上、工業用水では9割以上の水が淀川水系（淀川本川や淀川水系猪名川）からのものである。

そのような中、令和5年度は、8月15日の台風7号による豪雨以降は少雨傾向が続いたため、11月7日より淀川水系猪名川で取水制限が開始されたほか、1月には、琵琶湖の水位も平成17年度以来となる-79cmとなった。

市町（府県）間での情報共有や水の融通などを行ったことで、令和6年3月時点では、県民生活への影響は生じておらず、水位も徐々に回復傾向にある。

しかし、近年、異常気象が頻発していることを鑑みると、今後の異常渇水に備えて、複数の水源の確保など、さらなる体制整備に努めていく必要がある。

※阪神地域：尼崎市、西宮市、芦屋市、伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町



水利用模式図（神戸・阪神地域）ひょうご水ビジョン（H28）から一部加工

## ■奈良県■ リバーウォッチングの実施について

海に面していない奈良県では、山と川が身近な自然であり、歴史と文化の源です。奈良県では、山と川の重要性や魅力について理解を深め、奈良の美しい山と川を次世代に残すことを目指して、国民の祝日「海の日」である7月の第3月曜日を「奈良県山の日・川の日」として平成20年に条例で決めました。

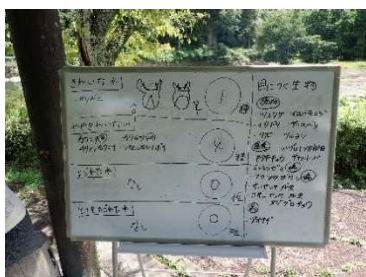
その関連行事の一環として奈良県では、上流がきれいな水であることが、海もきれいな水になるとのことで、子どもの頃から川に親しむ機会を通じて水環境や水質改善に対する意識を高めるために、県内の小学校等を対象にリバーウォッチングを実施しています。河川で探した水生生物を題材に、分かりやすく水質や河川環境について学べるような内容となっています。専門の講師（環境科学博士の谷幸三先生）による講義では、水生生物を指標にして調査した川の水質を4段階で判定し、川の水の汚れの原因や、川を汚さないために自分たちには何が出来るのかを考えます。

令和5年度は、奈良県内の淀川水系周辺の5つの学校でリバーウォッチング（うち2校は雨天及び気温が低いため講義のみ）を実施しました。特に令和5年9月5日（火）に室生小学校の4年生の皆さんと室生川で実施したリバーウォッチングでは、きれいな水にすむ生物とややきれいな水にすむ生物のみが観察されました。また、淀川水系の河川の環境基準点26地点のBOD平均値は1.1mg/Lであり、環境基準である5mg/Lを大きく下回っています。このことから、奈良県内の淀川水系の川はきれいであることが分かりました。

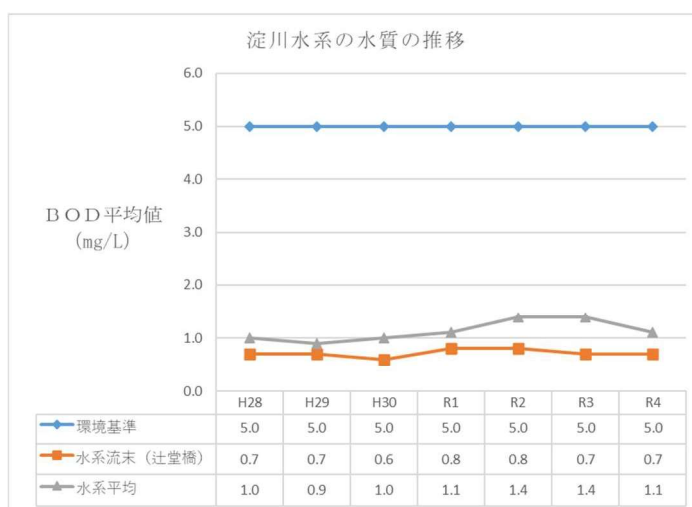
きれいな川をこれからも守っていくことができるように、県民の「川を汚さない」という意識の醸成や、それらの啓発活動を行うことで、誇りと愛着を持てる奈良の美しい山と川を育み、次世代へ引き継いでいきたいと考えています。



川に入って水生生物を探しています



サワガニをはじめとする、きれいな水、ややきれいな水にすむ水生生物がたくさん観察できました



## ■公益財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構■

### ～研究発表・助成報告会・啓発活動（イベント出展）活動再開！～

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、しばらく自粛していた現地における研究発表や助成事業報告会の開催、各種イベントへの出展活動を再開しました！

#### ●令和4年度子ども水質保全活動助成成果報告会【現地開催 令和5年8月24日 大阪府立男女共同参画・青少年センター】



成果報告発表に聞き入る参加者

発表する団体のみならず、令和5年度に助成対象団体の生徒さん達も見学に来てくれ、活動の「先輩」方の発表に熱心に傾聴され、意見交換も活発に行われ、水質保全の取組みの広がりのお機会となる有意義な報告会となりました。

#### ●第23回環境技術学会年次大会【学会発表 令和5年10月28日 立命館大学びわこ草津キャンパス】

当機構水質浄化研究所の和田副所長が「かけがえない琵琶湖・淀川の水環境を未来に受け継ぐために」と題して、機構の取組みについて発表を行いました。



和田副所長による発表

#### ●京都環境フェスティバル2024【イベント現地出展 令和6年2月3日 京都府総合見本市会館】

ブース出展を行い、パネルによる機構事業の紹介や「BYQレポート」の案内を行いました。また、来場者の身近な水辺を題材にした「散策ブック」は好評でした。



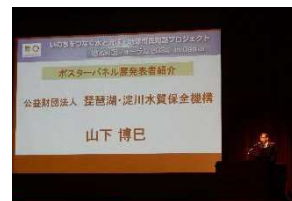
ブース出展の風景

#### ●いのちをつなぐ水と流域地球市民対話プロジェクト【イベント現地出展 令和6年3月2日 大阪市中央公会堂】



パネルディスカッションで講演する三和理事長

三和理事長がパネルディスカッション「大阪湾流域で考える水と環境・生業・文化」でパネラーとして参加しました。また、ポスターパネル展に出展し、PRタイムでポスター内容の発表、コアタイムでポスター内容の説明と併せて機構の紹介を行いました。



PRタイムの風景